

久留米の自然



久留米の自然 119号

2013年9月1日

ウチワヤンマ

学名 *Sinictinogomphus clavatus*

撮影日 2013年6月27日

撮影場所 久留米市上津町浦山公園

撮影者 大木武彦

ウチワヤンマ

大木 武彦

ウチワヤンマ（トンボ目、サナエトンボ科）は5月末～9月に平地や丘陵地の広い開放水面がある池、沼、湖に観察される。九州、四国、本州に分布し、都道府県によってはレッドリストの指定を受けている。全長70～87mm、腹長49～60mm、後ろ羽根40～51mm。腹部第8節の両側に半円形の、中央が黄色の黒色で縁取ったうちわ状突起があるのが特徴で、名前もそれに由来している。複眼は緑褐色をしていて、昆虫を捕食する。同じトンボ類のナツアカネを捕食しているのを目

撃したことがある。オスは水辺の棒、草丈の先などにとまって縄張りをつくる。他のオスがくると追尾して、また同じ棒に戻ってくるので撮影は楽である。メスはホバリングしながら、腹部の先端で水に浮かんだ植物質のゴミなどに、卵のひもをひっかけて産卵（打水産卵）する。その間オスは上空を飛びながら産卵警護する。卵の期間は1～2週間程度であり、幼虫で1～2年間を水深の深いところで生活する。深いところにいるのでヤゴの採集は普通はむずかしいといわれている。

久留米市の蝶 50

ツマグロキチョウ 国分 謙一

これから秋の野山にハギの花が咲き、散策するに心地よい季節となり、近所の川原や空地を見ながら散策していると小さな草花に多くの蝶を見かけるようになります。

日本では九州から東北地方南部まで棲息しています。(南西諸島でも稀に発見されていますが、中国大陸や台湾から飛んで来ていると考えられています。)

年に数回発生しますが出現する季節によって羽の模様と形が変り、初夏から出現するものを夏型といい、飛んでいる時は会誌 74号で紹介したキチョウに良く似ていますが、9月過ぎて出現する秋型は前翅の先が尖り、後翅裏面の模様も違ってきます。

ツマグロキチョウ「表羽の先端(つま先)が黒いキチョウ」で、名付けられた経緯は知りませんが、秋型の特徴から名付けられた事は確かなはずです。

絶滅に近付いている?

近年各地で絶滅の危機にさらされていて県によっては絶滅した、絶滅危惧種だとリストに挙がっていますが、久留米市でも非常に少なくなりました。30年ほど前までは各地に多かったのですが、気にもしなかったのですが。

いろいろな蝶が減少したと各地のレッドデータで報告されていますが、殆どは草原を主な生息地としている蝶達で、全国的にほとんど同じ種類がリストに記載されています、なぜでしょうね?必ず理由があるはずです。

私は自然環境が、人類が組織的に農業をしなかった時代の環境に少しずつ戻っているからだと思っています。会誌105号のジャノメチョウでも触れましたが、耳納山は近年まで草原に近かった場所ですが、柴刈や落ち葉掻きをしなくなり森林状態になっています。昆虫は環境によって生息場

所が違っているので、草原が無くなれば草原性の減少、森林が増加すれば樹林性の増加となるのですが、増加した森林はほとんどが杉やヒノキ林なので樹林性の蝶の増加とはならず、全体的に見れば全ての蝶が減少している、逆説的に言えば、今までの里山の環境は破壊された環境であり本来の自然ではないことになるので、草原性の蝶の減少(絶滅も含む)は当り前の現象だと思っています。

成虫で冬を越す

成虫で越冬します。正源寺(競輪場)では3月になると、北風が吹き込まない谷間の畑から1~2メートル程の作業道までの崖は、枯れた草が残っていたので格好の越冬地になるとみえて、成虫で越冬している他の蝶と共に多く見ることができました。

再び見てみたい状況

幼虫の食草はカワラケツメイで、空き地などにポツンと1~数本生えている地点で、数匹の雌と雄がカワラケツメイに執着するようにしている場面を数回見たことがあります。普通種だったので状況を観察しませんでした。今思えば産卵中の雌に雄が集まって来ていたのか、羽化間近の雌の蛹があったのではないかと考えています。次に同じような場面を見たときは調べたいと願っております。

久留米市での観察

非常に少なくなりましたが、飛んでいる時は、夏型はキチョウの小型なものと区別が難しいのですが、これから出現する秋型はやや模様の黄色が淡く見えるので、慣れると区別できます。また成虫で越冬するので3月中~下旬に北風が吹き込まない暖かい場所では、越冬から覚めた他の蝶を多く見ることが出来る地点では観察できるかもしれません。

第32回くめ緑の祭典グリーンキャンペーン において古賀信夫氏が緑の貢献者表彰

橋田 沙弓



表彰された古賀信夫氏

平成25年5月5日(こどもの日)午前10時、鳥類センターにおいて、第32回くめ緑の祭典グリーンキャンペーンが開催されました。その緑の貢献者6団体と個人表彰9名の部で当会の古賀信夫事務局長が「久留米の自然を守る会に入会後、事務局長を務めて7年目。久留米の環境保全活動に貢献。市民会議行事にも協力。」ということで、久留米市長より賞状が授与されました。古賀氏は久留米の自然を守る会に入会後、2007年に事務局長となりました。その間、久留米の自然を守る会の環境保全活動に邁進されました。環境教育読本「ひとつの川から見えるもの」2008年1月31日の出版に際し、356ページの編集校正に多大の貢献を、また、例会の活動の写真撮影、記録、会報「久留米の自然」の編集に14年間携わっておられます。HPの作成管理、ちらしの作成等や助成金の申請にも携わり、環境保全の活動の推進力になっておられます。

森林ボランティアにも登録されています。これからも写真撮影はもちろんですが、会報の編集、HPの更新やイベントのちらしなど頑張っ続けて欲しいと期待されています。

高良川流域のキノコ(その21)

角 正博

今回からいわゆるタコウキン(多孔菌)科のキノコです。しかし、既にのべたように、キノコの世界もDNA分析によって、大きく分類が変わりつつあります。タコウキン(多孔菌)科というくり方では、適切さを欠くところがありますが、このシリーズでは原則、保育社図鑑などに準じます。

今回は、この中から「傘の表面が平たい鱗片を帯びる」タマチョレイタケ属のキノコです。

37. ハチノスタケ(蜂の巣茸) *Polyporus alveolaris* (写真1)

高良川流域では、冬の12月頃から、翌年の6月下旬頃まで広葉樹の落枝などで、見かけます。傘は一般に半円形～腎臓形で短い柄をつけます。傘の表面は淡～濃黄茶色で、扁平な細かい鱗片を帯びます。肉ははじめ白色、のちにクリーム色となり、幼菌から成菌では柔軟な革質、以後は硬くなります。下面の管孔は放射状に長い蜂の巣状です。このため下面の管孔が蜂の巣のように見えるので、この名があります。材の白色腐朽をおこします。

38. アミスギタケ(網杉茸) *Polyporus arcularius* (写真2)

高良川流域では、ハチノスタケが寒い時期のキノコであるのに対して、アミスギタケは5月頃から8月頃にかけての、暑い時期に見かけるキノコです。広葉樹の切株や土に埋もれた広葉樹の落枝などでみられます。タフなキノコで、カンカン照りの中でも、カラカラになったまま、ミイラのようになっていますが、ひとたび雨が降れば元通り元気になります。子実体は傘の中心に柄をつけて直立生です。傘は円形・丸山形から平たく開きませんが、中心はへそ状にくぼんで全体はやや浅い漏斗形です。表面は黄白色～淡いこげ茶色、稀に濃いこげ茶色の小さなささくれ状の鱗片をおびます。肉は強靱な革質です。材の白腐れをおこします。

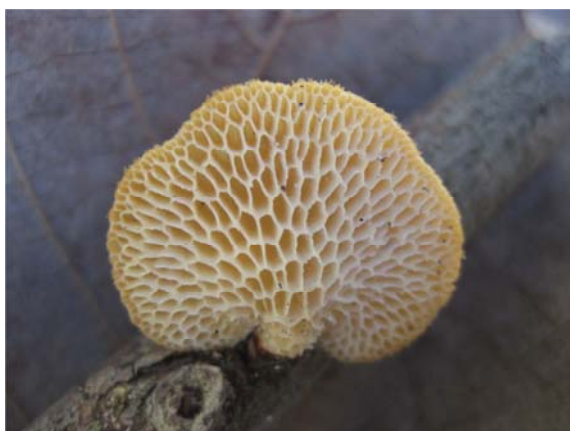


写真1 ハチノスタケ



写真2 アミスギタケ

生き物に魅せられて 57

セミの巻 松永紀代子

2013年の7月23日、朝からもわ〜と湿った空気に、雲間から日が差し、ものすごい暑さだ。庭では、チラリ、チラリとムラサキシジミが飛んでいる。暑さを倍増させているのはセミたちの声だ。

頭のすぐの上のアラカシの枝にクマゼミ。下にいと耳がキ〜ンとなりそうなくらいだ。ああ、2匹で鳴いていたんだ。

上にいたAがワシワシワシワシと音を大きくしながら小刻みに枝を下りてきて、Bを軽く飛び越えてすぐ下についた。Bは、弾かれたように横のマテバシイの枝に移ってまたワシワシと鳴いたが、すぐに先ほどの枝に戻ってきて、鳴き始めた。2

匹が腹を動かすすごい音をたてている。AはまたBのそばに鳴きながらやってきた。Bは少し場所を移したが、Aのそばに戻ってジ〜ワシワシワシ。お互い譲らない。

戦いは隣のエゴノキの枝に場所を移した。と、2匹の間に♀が1匹やってきた。Aがじわじわと鳴きながらそばによる。Bも負けまいと下からワシワシやっている。♀はそ知らぬ振りでも木の汁を吸っている。腹端に時折水滴がキラリ。わざわざそばに来ながら、罪作りな♀だ。いやいや、伴侶選びは慎重にしなければならないのだ。空に雲が広がり辺りが暗くなった。クマゼミの声はピタリと止み、代わりにニイニイゼミの声が庭に広がった。

日が差している間、ちょこっと飛んでは産卵を繰り返していたムラサキシジミもどこに行っただかわからなくなった。

高良川流域の地衣類 (その9)

角 正博

1. ヤマトキゴケ (大和樹木毛) *Stereocaulon japonicum* var. *japonicum*

高良川流域で、子柄や擬子柄などの形が樹枝状で、しばしば見かけるものにキゴケ科キゴケ属のヤマトキゴケがあります。子器を支える擬子柄は、ほとんど分岐せず棒状で長くても3~4cm程度、中実で硬く灰色~灰褐色で、岩上に生育しています。擬子柄の向日面には、サンゴ状の棘枝が密にあります。裏面にはあまり見られません。成菌では、擬子柄の頂部に黒褐色で珪球状の子器をつけます。またまれに暗緑色の小球の集合からなる頭状体もつけることがあります。これは菌類が、緑藻類と藍藻類(ネンジュモ属)と共生しているためです。ヤマトキゴケは筑後地方の平地から低山地に広く見られます。また筑後地方でも八女市黒木町や矢部村などの標高の高いところでは、大型で粉芽をもつオオキゴケが見られるようになります。

なお、高良川流域ではありませんが、高良山で

は樹状地衣の一つであるカラタチゴケ科カラタチゴケ属コフキカラタチゴケが生育しています。高良山がある耳納山地の北麓では、岩上まれに樹皮上にしばしば見られます。



ヤマトキゴケ

例会報告

第404回例会

筑後川春の野草を愉しむ会

橋田 沙弓

3月31日(日) 快晴のもと、第404回例会筑後川春の野草を愉しむ会がくるめウスで開催されました。

50名の定員に46名の参加者があり9時半過ぎから1時間高良川下流で自然観察を行いました。セリ、菜の花、ヨモギ、オランダガラシ等採集してくるめウスに戻ってきました。くるめウスのテラスではテントの下で大鍋にお湯が準備してありました。前日に準備した野草50人分が洗って整えられ、細かく切られて、野草の料理がはじめられました。事前に用意した調味料を使い、お米は炊かれて野草の花のバラ寿司を今回初めて作りました。野草料理のメニューに基づいて、野草の天ぷら、野草のコロッケ、ヨモギ練りこみだご汁、野草の和え物、ヨモギだんご、野草ヤキソバ、ハコベグリーンジュースが作られ、12時半頃ヨモギゼリー等添えられて皆んなで頂くことが出来ました。印象的だったのは、ハランのお皿につき分けられたお料理がきれいだったことです。採集班、調理班、設営班など分かれてやることで、スムーズにうまく出来たと思いました。今年も詳しいパンフレットを作成しました。前日にスタッフ一同野草を採集したのが大変でしたが良かったと思いました。本当にご苦労様でした。参加者から多数の感想文を頂きました。

東合川2丁目 江嶋美登里

野草がこんなに身近にたくさんあることにビックリまたこんなにおいしいとは!!教えて下さってありがとうございました。参加の皆さんもいい方々で気持ちよく参加できました。次回は子供も連れてきたいです。先生、準備から大変でしたでしょう。ありがとうございました。

ひととき

動物笑い話 カモシカ

その63 米田 豊

ハンターから逃れて来たシカの群れがカモシカに出くわした。「君は特別天然記念物として保護されているから良いね。俺達も奈良市か安芸の宮島で暮らしたいよ」「僕らは山岳地帯の岩場付近に単独生活し、人の生活を干渉しないよ。その点、シカ君達は森林地帯に住み、群れ行動が多く、里山の農耕地や植林地で問題を起こしているとか」「確かに。でも俺達も生きるために必死や。野菜も美味しいから。里山は過疎化・高齢化、ハンターの減少などもあるから、仲間を増やし、分布を拡大できるチャンスは“今でしょ”」「あまり図に乗るといけないよ。オオカミを復活させようという取組みもあるから」「え!本当?」「本当だよ。だから、僕らみたいに控え目にしたら?ともあれ、一般の人の“シカかも?カモシカかも?”の識別レベルの低さには困るよ」

※日本特産のウシ科の動物。体長は1m余、体重は約40kgで、雄雌とも短い角を持つ。

西町 山本梨世

様々な自然に触れてそれと共に初めて会った人とも仲よくなれて今日の体験を通して多くのことを知ることができました。自分もつくるのを手伝ったせいか料理もおいしく食べることができました。とても楽しかったです。

朝倉市 赤穂由美

植物の名前を覚えるのが好きなので、初めて参加しましたが、野草の様々な食し方を知ることが出来、勉強になりました。

上津町 大木柚住

おだんごおいしかったです。

御井町 北野明伸

春の野草の中に食用になる草類がたくさんあることを知ることと調理別に食することが出来て、山行時に大いに利用できることを確認できました。

(今後の要望として、一般人が野草を摘むときに、①食用に安全なもの、適するもの②毒があるもの(絶対に食べてはいけないもの)について、現物を見せて、ご教示いただける機会を希望します。)

神崎市 渡邊楓

いろいろな野草を知ることができて、よかったです!つくしのてんぷらは、はじめて食べたけど、おいしかったです!

お花も食べれるということはビックリしました。

神崎市 渡邊碧

こんなにたくさん食べれるやそうがあつてびっくりしました。また、きてみたいです。

神崎市 渡邊紀久子

いつもおいしい野草の食事をありがとうございました。つばきもなずなもいつも目にする物をこんなに食べられるなんて!!もし、災害で孤立するようなことになっても2、3日は食べていけるかも??

荒尾市 植山繪香

たくさんの食べれる野草を知ることができました。お母さんにもおしえてあげたいと思いました。

梅満町 永松マサ子

初めて参加させて頂きました。初めての野草おいしく楽しい1日でした。

八女市 篠原真理子・陽世

昨年初めて「春の野草を愉しむ会」に参加して子供がとても楽しかったようで、今年も春を待ちわびていました。身近に、自然に生えている野草で、こんなに色々な料理ができておなかいっぱいになるなんて感激です。娘は、楽しみにしていたコロッケを食べ、グリーンジュースを飲んで大満足ようです。春休み中に何度か野草料理をすることになりそうです。

高良内町 西山芳枝

春の野草摘みも気持ちがうきうきしていました。知らないことをたくさん教えていただきたり、香をかいだり・・・いいですねえ。野草料理も味わい深くおいしかったです。いつもながら、心のこもった下準備、ありがとうございました。感謝します。

高良内町 田中キヌヨ

野草の昼食おいしく頂きました。良い思い出が出来ました。お世話様でした。

福岡市 植村誠夫

久振りの自然を思いおこす食材を口にして昔を思い出しました。「てんぷら」等はあつたかい時に食べたらもっともっと美味しかったではないか?ああ、残念でした。

上津町 柳 安徳

トリプルAです。とても楽しかったし、勉強にもなりました。料理は最高でした。

山本町耳納 青柳教子

とても勉強になりました。これを機に野草の勉強をしたいと思います。有難うございました。

上津町 森田清己

大変楽しく、野草の勉強が出来ました。料理も楽しくいただきました。ありがとうございました。

神崎市 大原美幸

自然の中にこれ程に身近な草があることがわかり、いつも草刈機でブンブン草をかっていた事をもっといえないかなと感じられた。

大善寺南2丁目 竹田由紀子

今日は、一日楽しい野草など食べられる品種などわかりやすく、今から野草を見るたび関心が高まります。今日の観察の時は説明がわかりにくいというか声が届きにくかったのが残念でした。

大刀洗町 安達美津子

こんなにたくさんの種類の野草を調理できてとてもたのしかったです。孫と参加しましたがとてもよるこんでいました。



出来上がった野草料理



参加者でおいしくいただきました

第405回例会 樹木の名札付け**河内 俊英**

今回の名札付けは、5月26日21名の参加で人気の北回り遊歩道でした。このコースは、昨年(2012年)7月の豪雨で入山差し止めになっていましたが、ようやく復旧しました。

北回りコースには、大きなヤマモモの林があり、樹洞があるので、以前はフクロウの巣立ちが見られたのですが、近年は??さらにこのコースにはイノシシのぬた場もあり、この20年くらいは使われているようで、新鮮な足跡や樹皮にはこすり付けた泥と毛が付着していました。さらに見どころとしては、タゴガエルが集合する井戸があったり、ベニツチカメムシが群れる樹木もあり変化に富むコースです。

今回の名札付けは、事前の名前付きテープは省略して現地で樹木ごとに教えながら付けてもらいました。相変わらずの橋田先生の孤軍奮闘でした。参加者が21名と多目だったことから、限られた樹木に関しては河内や角さんも手分けして、木札を付けてもらいました。丁寧な樹木の説明が欲しいヒトには橋田先生に対応いただき、おおざっぱに早く進みたい子どもたちには河内と角さんが対応しました。

事前準備やたきこみご飯と豚汁、相変わらず橋田先生に「オンブに抱っこ」で実施された名札付けでしたが、人気コースなのでこのルートの名札付けは散歩される市民の方々の評判も良いように思います。カメラ担当の古賀さんもありありがとうございました。次回は再度南回り遊歩道の名札付けが良いかもしれません。皆様お疲れさまでした。

ベニツチカメムシ：この昆虫は久留米周辺が北限付近と言われ、久留米では希少です。とはいえ群がっているのので生息地では多数みられる。餌はボロボロノキの実で、落ち葉の下などに巣をつくる。孵化した幼虫に親がボロボロノキの実を与え世話をし、幼虫は細い口針を刺して吸汁する。餌がボロボロノキの実に限定しているのので生息地は限られる。

大刀洗町 安達美津子

森林浴をかねての樹名板の取り付けはとても気持ちよいものでした。自分で書いた木には愛着がわきます。時々散策におとづれて少しずつ木の名前、特徴を覚えていきたいです。四季折々の楽しみができました。

大刀洗町 安達真弓

ぶた汁がとってもおいしかったです！！知らない木の名前が分かってよかったです。

高良内町 田中絹代

森林よくしながら橋田先生の説明ありがとうございます。樹木の名前を良く御存じです。次回もお供したいと思います。昼食もおいしかったです。

高良内町 西山芳枝

シロタモの葉の形、エゴノキのはなし、ヤマモモの形成層のはなし、など、とても印象に残りました。樹木の素晴らしさと、かしこさにふれた思いです。昼食もおいしかったです。素晴らしい企画ありがとうございます。橋田先生、ありがとうございました。

諏訪野町 野田敦子

久しぶりに高良山を歩きました。緑深く木々の種類の多さに感激しました。教えていただいた多くの木々の名前はほとんど覚えられませんでした。いただいた木々のノートを参考に少し勉強したいと思います。お昼ごはんごちそうさまでした。おいしかったです。久留米に住んでいて本当によかったと思った一日でした。

上津町 金城智子

覚えきれない位、沢山の木がありました。スベスベの木や途中で折れているのに再び上に向かって伸びている木もあり面白かったです。イノシシの足跡もあり多くの生き物の存在を感じました。ごはんがとてもおいしかったです！！

上津町 金城博之

1. 数kmですが、坂道なので大変かと思いましたが、涼しくてしかも木の名前も丁寧におしえていただき楽しかったです。ぶた汁とたき込みご飯もおいしかったです。また参加したいです。

上津町 金城道博

木の名前がたくさん知れて、よかったです。お昼ごはんもおいしかったです。またさんかしたいです。

上津町 金城満智花

たくさんのしぜんと虫などを知ることができたのでよかったです。カメラマンさんが、イノシシの足あとをおしえてくれました。たくさんの生き物のことが分かりとても楽しくてぶたじるとたきこみごはんがとてもおいしかったです。

本山2丁目 江崎 治之

橋田先生をはじめ講師の先生方に丁寧な樹木の説明をしていただきありがとうございます。初めて参加させていただきましたが初めて見る木が多く大変勉強になりました。秋などまた違う季節にも樹木や野草等いろいろな生き物の説明をしていただけたらありがたいと思います。

上津町 大木恭子

高良山に80以上の木があるのにびっくり。名前を覚えるのが大変でしたが一本一本名前を覚えてもらい木札をつけて行って、まるで学校の楽しい野外授業のように感じました。豚汁、たきこみごはんおいしかったです。ありがとうございます。

かみつまち 大木ゆずか

きにいろいろつけたのがたのしかった。

第406回例会

キノコ観察会とキノコ汁

丸山由紀子

毎年この時期に行っている高良台のキノコ観察会を6月30日に行いました。講師はおなじみの金子周平先生で、毎回キノコの魅力を参加者に分かりやすく丁寧に伝えていただいています。

このところ、雨天決行が多かったのですが、今年は久しぶりに雨が降らず湿り気もちょうどいい絶好のキノコ日和でした。以前は、演習場の中で行っていたのですが、ここ数年は立ち入りができなくなり、演習場周辺での観察会となっています。そういう変化はありましたが、1999年からの観察会のデータをまとめてみると、なんと204種類のキノコが観察されています。これは、金子先生のキノコを見分ける幅広く専門的な知識と、それぞれの回に参加したみなさんのキノコを見つける「目」の成果だと思えます。

今年出会ったキノコの私の中のNO1はニオイワチチタケです。褐色のカサで、特に目立つキノコではありませんが、そのにおいては全員が納得のカレーのにおいでした。キノコに関する質問で最も多いのは「これって食べられるんですか・・・」というものです。金子先生によると「どんなキノコも一度は食べられる・・・」とか・・・見て、嗅いで、さわって味わって、キノコの魅力は本当に一筋縄ではいかないな・・・と思います。

観察会の後は、橋田会長によるおいしいキノコカレーをみんなで味わいました。

キノコ同定：金子周平氏

ベニタケ科：アイタケ、オキナクサハツ、カワハツ、キチャハツ、クロハツ、ヒビワレシロハツ、ベニタケ属（チチタケ属 ニオイワチチタケ、クロチチダマシ）キシメジ科：アマタケ、モロノカレバタケ属イグチ科：イグチの仲間、オニイグチモドキ、キイロイグチ、クロアザアワタケ、チチアワタケキシメジ科：カレバキツネタケ
ハラタケ科：キツネノハナガサ、フウセンタケ科：キヌハダニセトマヤタケノボリリュウタケ科：クロアシボソノボリリュウタケ、クロサイワイタケ科：クロコブタケサルノコシカケ科：シハイタケ
ホコリタケ科：スミレホコリタケ、ノウタケの仲間
タバコウロコタケ科：ニッケイタケ 以上参考（11科24種。2013年新種として出現したのは7種でした。）

大刀洗町 安達美津子

はじめての参加でした。こんな身近なところに様々なきのこがあることにびっくりです。ヤマドリタケモドキは大きくて食べることもできるという事なのでしっかり覚えました。自然の中でうぐいすの声をききながらの散策はとても気持ちがよ

かったです。手作りの「なしカレー」、ごちそうさまでした。

大刀洗町 安達真弓

カレーのかおりがするきのこにびっくりしました（ニオイワチチタケ）。大きなきのこをみつけて楽しかったです。カレーもおいしかったです。

御井町 塚本泰正

始めて貴会の自然を守る会の行事に参加し自然の成り立ちの観察（キノコ）に大変感銘を受けました。ありがとうございました。

御井町 塚本絹子

身近かに見るキノコ、食べられるキノコ等興味がつきないキノコ達ですが、図鑑で名前を探してもなかなかわからないので観察会に参加出来るととても嬉しいです。以前に竹藪でアミガサ茸に出合った時がありましたが、その時は食用とは知らずにいましたので今でも残念に思えてなりません。

荒木町 篠田守

昨年につき2回目ですが、初回とおんなじで全然おぼえられません。先生にくっついて楽しい時間をありがとうございました。おいしいカレーを感謝します。

山本町豊田 鹿毛久美子

キノコの種類の多さに驚き、植生の場所にもキノコの種類が違うと思うし、やわらかいのにもびっくりしました。素手で触っていいのかとか、もっと知りたいです。

上津町 大木ゆづか

たんけんたのしかったです。

上津町 大木恭子

こんな近くの山林に、たくさんのきのこがあるのにとっても驚きました。珍しいきのこを見つける度に大きな歓声があがり、名前を覚えるのがたいへんでした。お昼のカレーにもきのこのエリンギやエノキが入っていてとてもおいしくいただきました。楽しい一時ありがとうございました。

本山2丁目 江崎治之

始めて見るキノコばかりで種類の多さにびっくりしました。名前を少しずつ覚えていきたいと思いました。カレーがとてもおいしかったです。



ニオイワチチタケ

《行事案内》

◇ 第408回例会：

筑後川観月会

天体観察と星座、お抹茶もあります。天体の神秘を発見し、観察しましょう。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：9月14日(土) 雨天中止
 〔集合・解散〕19:00 21:00 くるめウス
 〔参加費〕：300円 定員50名
 〔持参するもの〕：筆記用具
 〔共 催〕：筑後川まるごと博物館実行委員会

◇ 第409回例会：

ネイチャーゲームと自然観察会

全国いっせいのネイチャーゲームと昆虫と植物の自然観察会をおこないます。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：10月20日(日) 雨天決行
 〔集合・解散〕：10:00・13:30
 高良内幼稚園駐車場
 〔参加費〕：無料 定員30名
 〔持ち物〕：水筒、帽子、筆記用具
 〔共 催〕：くるめネイチャーゲームの会
 久留米市農政部生産流通課

◇ 第410回例会：

高良山キノコ観察会とキノコ野菜カレー

高良山キノコ観察とキノコビンゴゲームを行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：12月1日(日) 雨天中止
 〔集合・解散〕：10:00・14:30
 高良内幼稚園駐車場
 〔参加費〕：無料 定員50名
 〔持ち物〕：帽子、お茶、筆記用具
 〔共 催〕：久留米市農政部生産流通課

◇ 第411回例会：

総会と環境講演会と新年会

26年度総会と環境講演会を行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：平成26年1月19日(日) 雨天決行
 〔集合・解散〕：13:00・17:30
 〔会場〕：未定

《事務局だより》

2013年6月22日、世界遺産委員会は「富士山」を世界文化遺産に登録を決めた。しかしそのまわりには有する富士五湖のいくつかは、釣りを楽しむための外来種であるブラックバス等を業者が養殖放流し釣客を招いているようである。これにより日本古来の淡水魚がこの外来種に食べられているそうです。

また、登山者が登山道を外れて登るため崩壊が多く、また、山小屋のまわりに糞尿の始末、ちり紙の放置等、遠くから眺めた美しさだけで決まるものでしょうか！

国民・住民一人一人はもっと恥をしってほしいものです。これで世界の文化遺産と言えるのでしょうか。(中野昭剛)

ホームページもご覧下さい。

<http://kurumenoshizen.net/>

1. 会員異動

異動なし

2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙(口座番号01750-1-40114)に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

3. 原稿募集

次号120号は平成26年1月1日発行予定です。原稿の〆切は12月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会(定例)は原則として隔月第1水曜日の19:30~21:30まで、えーるピア2Fで行います。皆さんも気軽にご参加下さい。(11月6日、平成26年1月8日、3月5日)

久留米の自然

平成25年9月1日第119号
 発行 久留米の自然を守る会

E-mail hashida@kurumenoshizen.net

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827

久留米市山本町豊田 2320-6

TEL 46-8622 FAX 46-8623 (古賀)

印刷 千年屋印刷

TEL 43-2400 FAX 43-2408